

<b>副詞</b>	自立語で活用は無い。述語を修飾する連用修飾語として機能する。 山田孝雄：副詞の三分類 他の副詞も修飾する。												
非常に軽い <b>きれいに</b> 咲く <b>速く</b> 走る 用言を修飾するが、副詞は活用しないのルールで <b>形容詞の連用形</b> とする。という見解もある。													
<b>情態副詞</b>	様態副詞 状態副詞 動作、作用の状態を詳しく表す。 【どのように】 主として用言の文節を修飾する。 用言：動詞・イ形容詞・ナ形容詞	<b>客観的</b>	<b>言表事態(命題)の内働く</b>										
ゆっくり上がる。 のんびり歩く。 わざと無視する。 とっくに終わった。 おとこはいきなり叫んだ。 彼女はそっとキスした。 明日 <b>また</b> 行きます <b>しばらく</b> 仕事を休む。 <b>ふと</b> 昔のことを思い出した。	オノマトペ 音象徴語も情態副詞である。畳語（繰り返し）が多い。 <table border="1" data-bbox="795 411 2145 721"> <tr> <td data-bbox="795 411 945 497"><b>擬声語</b></td> <td data-bbox="945 411 1841 497">にやーにやー ぴよぴよ わーわー ゲラゲラ笑う。わいわい騒ぐ</td> <td data-bbox="1841 411 2145 497">人・動物の声を言語化</td> </tr> <tr> <td data-bbox="795 497 945 584"><b>擬音語</b></td> <td data-bbox="945 497 1841 584">ガシャン、ゴロゴロ、ザーザー 雷がゴロゴロ鳴っている。ざぶんとお風呂に入る。ばたばた働く。</td> <td data-bbox="1841 497 2145 584">聴覚刺激を言語化</td> </tr> <tr> <td data-bbox="795 584 945 670"><b>擬態語</b></td> <td data-bbox="945 584 1841 670">キラキラ、ねばねば、どんより 空がどんよりしている。じっと睨む。こそこそ逃げる。にこっと笑う</td> <td data-bbox="1841 584 2145 670">視覚 触覚刺激を言語化</td> </tr> <tr> <td data-bbox="795 670 945 721"><b>擬情語</b></td> <td data-bbox="945 670 1841 721">わくわく、いらいら</td> <td data-bbox="1841 670 2145 721">感情を言語化</td> </tr> </table> オノマトペの多くは副詞として単独、もしくは「～と」の形で動詞を修飾する 副詞：胃が <b>きりきり</b> 痛む。胃が <b>きりきり</b> と痛む。糸を <b>ピン</b> と張る。 オノマトペは動詞やナ形容詞になって述語的に使われることもある。 動詞：いらいらする。 <b>ちら</b> つく。 <b>きら</b> めく。 ナ形容詞： <b>ぶかぶか</b> な服。 <b>べとべと</b> になる。	<b>擬声語</b>	にやーにやー ぴよぴよ わーわー ゲラゲラ笑う。わいわい騒ぐ	人・動物の声を言語化	<b>擬音語</b>	ガシャン、ゴロゴロ、ザーザー 雷がゴロゴロ鳴っている。ざぶんとお風呂に入る。ばたばた働く。	聴覚刺激を言語化	<b>擬態語</b>	キラキラ、ねばねば、どんより 空がどんよりしている。じっと睨む。こそこそ逃げる。にこっと笑う	視覚 触覚刺激を言語化	<b>擬情語</b>	わくわく、いらいら	感情を言語化
<b>擬声語</b>	にやーにやー ぴよぴよ わーわー ゲラゲラ笑う。わいわい騒ぐ	人・動物の声を言語化											
<b>擬音語</b>	ガシャン、ゴロゴロ、ザーザー 雷がゴロゴロ鳴っている。ざぶんとお風呂に入る。ばたばた働く。	聴覚刺激を言語化											
<b>擬態語</b>	キラキラ、ねばねば、どんより 空がどんよりしている。じっと睨む。こそこそ逃げる。にこっと笑う	視覚 触覚刺激を言語化											
<b>擬情語</b>	わくわく、いらいら	感情を言語化											
<b>程度副詞</b>	物事の性質や状態などの程度を表す。 程度性を持つ語を修飾詞でその程度を限定する	形容詞は程度性を持つ語が多い。「暑い寒い長い短い」 程度性のある名詞「右左上下前後 こちらそちらあちら」	<b>客観的</b>	<b>言表事態(命題)の内働く</b>									
今年の夏は <b>かなり</b> 暑い。 この町は <b>ずいぶん</b> にぎやかだ。 <b>とても</b> 疲れました。 <b>もっとも</b> 難しい。 <b>すごく</b> 前の話です。 <b>がつつり</b> 食べる。 <b>もっと</b> こちらへ来てください。 <b>だいぶ</b> やせた。 <b>たっぶり</b> 食べる。 <b>大変</b> 驚いた。 <b>とても</b> 嬉しい。 <b>ちょっと</b> 疲れた。 <b>もっと</b> 食べて。 <b>やや</b> 小さい。 <b>とても</b> 汚い。	他の副詞を修飾する副詞 <b>もっと</b> たくさん <b>もう</b> すこし <b>かなり</b> ゆっくり歩く。 <b>ずいぶん</b> しっかり勉強する。 <b>もっと</b> ゆっくり話してください。 時空間を表す名詞を修飾 <b>かなり</b> 近所 <b>ずっと</b> 昔	動詞を修飾する場合、量や頻度を表すことが多い。 彼は、 <b>よく</b> 海外旅行へ行く。姉は <b>しょっちゅう</b> 財布を忘れる。 「すこし」が形容詞を修飾すると相対的な程度が小さいことを表す。 <b>すこし</b> 小さい。 「もっと」は2つの事物の比較に使われる。「ずっと/いつそう/一段と」 それは <b>もっと</b> 大きい。関係的程度副詞で常に比較を表す 「かなり」は否定文より肯定文で良く用いられる <b>かなり</b> 白い。 <b>かなり</b> 早い。 <b>かなり</b> 大きい。 不可能を表す「とても」その計画はとても無理だ。：とてもじゃないが											

陳述副詞	呼応副詞 誘導副詞 後に続く内容をあらかじめ知らせる機能	事柄に対する話し手の心的態度(モダリティ)を表す副詞。	主観的	言表事態(命題)の外で働く
<p>どうして 学校に来なかったのですか。</p> <p>いわば 生死をかけた戦いである。</p> <p>おそらく 彼は来ないだろう。</p> <p>たぶん 彼は来ないだろう。</p> <p>たぶん 彼は来ない。</p> <p>きっと 明日は晴れるだろう。</p> <p>きっと 君は来ない。</p> <p>彼はたしか横浜に行くはずだ。</p> <p>必ず 鍵をかけてください。</p> <p>まるで お餅のように柔らかい。</p> <p>ぜひ、また 遊びに来てください。</p> <p>どうか 私を連れて行ってください。</p> <p>もし、失敗したら、泣いてしまう。</p> <p>仮に 助かったとしても、生活は厳しい。</p> <p>たとえ 負けたとしても悔いはない。</p> <p>決して 失敗できない。</p> <p>いまだ失恋の傷が癒えない。</p> <p>とうてい 彼には及ばない。</p> <p>めったに見つからない品物だ。</p> <p>電車がなかなか来ない。</p> <p>なかなか難しい問題だ。</p> <p>敵もなかなかやるね。</p> <p>あいにく、名詞を切らしています。</p> <p>幸い、骨折だけで済みました。</p> <p>せめて、子供だけは遊ばせたい。</p> <p>はたして 見事にやってのけた</p> <p>はたして 誰が栄冠を手にするのか</p>	<p>疑問または反語と呼応</p> <p>心的態度 推量と呼応</p> <p>心的態度 推量と呼応</p> <p>呼応しないケース</p> <p>心的態度 推量と呼応</p> <p>呼応しないケース</p> <p>心的態度 確からしさ</p> <p>確からしさ</p> <p>例えと呼応</p> <p>願望と呼応</p> <p>願望と呼応</p> <p>仮定と呼応</p> <p>仮定と呼応</p> <p>否定と呼応</p> <p>否定と呼応</p> <p>頻度 否定と呼応</p> <p>否定と呼応</p> <p>事柄の評価 呼応無し</p> <p>事柄の評価 呼応無し</p> <p>事柄の評価 呼応無し</p> <p>事柄の評価 呼応無し</p> <p>事柄の評価 呼応無し</p> <p>事柄の評価 呼応無し</p> <p>事柄の評価 呼応無し</p>	<p>時間的副詞</p> <p>毎日 お風呂に入る しばらく見ていた。すぐに来た。明日 東京へ行く。 テンス：話がされる「今・この時」を基準とした前後 「かつて彼は人間だった。」「これから ご飯を食べる。」 アスペクト：事態における開始や最中といった局面を表す 子供が「はじめて立つ」「やっと立ちあがる」「いよいよ立ち上がる」</p> <p>用言を修飾する副詞の例外</p> <p>【1】副詞が「の」を伴って連体修飾語になる。名詞を修飾する。 情態副詞 しばらく 食事がのどを通らなかった。 しばらくの間、食事がのどを通らなかった。 程度副詞 よほど怖かったようだ。よほどの事情があったのだろう。：推測できる よほどの決意だった。よほどの効果がある。 陳述副詞 もし なにかあれば、連絡してください。 あいにくの天気 もしものことがあれば、必ず連絡してください。</p> <p>【2】副詞が「だ」「です」を伴って述語になる。 ゴールまで、もうすぐだ。 本当に、そうですか。</p> <p>【3】副詞から接続詞・感動詞に転成するものがある。 雨が なお 降り続けている。：副詞 なお、このメッセージは5秒後に消滅する：接続詞 ちょっと そこまで行ってくる。：副詞 ちょっと、お客さん、携帯忘れてますよ。：呼びかけの感動詞 ちょっと、何やっているの。：非難制止の用法</p> <p>数量詞の副詞的用法と名詞的用法</p> <p>本を3冊読んだ。：副詞用法 3冊の本を読んだ。：名詞用法 子供を5人産んだ。：副詞用法 5人の子供を産んだ。：名詞用法</p>		